

令和4年度第2回「防府市農林業政策懇話会」 議事録等

■開催日時・場所

令和5年2月20日（月）午前10時から午前11時40分まで
笑顔満開通りルルサス文化センター 交流室4

■次第

- 1 主要事業等に関する情報提供
 - ・山口県「農林業の知と技の拠点」関連事業について
 - ・令和5年度農林業に関する当初予算の概要について
- 2 防府市の農林業を活性化する提案等について

■配布資料

	資料名	番号
1	令和5年度山口県農林水産部予算の概要（抜粋）	【資料1】
2	令和5年度防府市農林業に関する当初予算（案）の概要	【資料2】
3	農道牟礼小野線整備事業の進捗状況について	【資料3】

■委員等出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	市長	出席
農林業関係団体	石丸 和美	山口県農業協同組合防府とくち統括本部長	出席
	戸田岸 巖	山口県中央森林組合 組合長	出席
	藤井 伸昌	防府市農業委員会 会長	出席
	原田 慎司	山口県農協青壮年部	出席
流通関係団体	吉武 健志	(株)ユアーズバリュー代表取締役社長	出席
	荒瀬 正則	防府市蔬菜出荷組合 組合長	欠席
農業関係者	岡本 拓実	(株)ファーム大道 代表取締役社長	出席
	矢部 洋子	施設野菜	出席
	吉次 英哲	果樹	出席
	柳 俊則	花き	欠席
	池田 英雄	畜産	出席
消費者	阿部 幹恵	防府市生活改善実行グループ連絡協議会 会長	出席
公募委員	中山 博祐		欠席
	蓑島 啓子		出席

■会議録

1 主要事業等に関する情報提供

- ・山口県「農林業の知と技の拠点」関連事業について
 - ・令和5年度農林業に関する当初予算（案）の概要について
- 事務局から資料にて説明

2 各委員による意見

- | | |
|-----|--|
| 会長 | 本日は、当初予算（案）のうち、地域おこし協力隊と給食食材の地元農産物の使用について、事務局に説明を聞いたうえで、御意見をいただきたい。 |
| 事務局 | 地域おこし協力隊について説明。担い手の確保、また、農地集積を進める中で、耕作放棄地にならないよう、農業公社に担ってもらいたいことなどを説明。 |
| 会長 | 耕作放棄地対策など地域農業の課題に対応するため、地域おこし協力隊には、農業公社で研修をし、未耕作農地等で腕を磨いてもらい、任期終了後、新規就農や集落営農法人に就職してもらおう。補充については、新たに地域おこし協力隊を入れる。また、農業大学校卒業生の農業公社への受入を考えているが、御意見をいただきたい。 |
| A委員 | 年々、耕作面積が減っている。担い手の確保という点から、地域おこし協力隊受入はいいことだと思う。受託作業の中で、除草作業、耕運作業など作業を絞ってみてはどうだろうか。また、任期終了後の就職先情報を提供できればいいと思っている。ぜひ成功してほしいし、協力をしていきたいと思っている。 |
| B委員 | 地域おこし協力隊を農業公社に派遣するのはいい活動だと思う。農業公社の役割は大きい。耕作放棄地対策としても、農業公社の役割は今後大きくなっていくと思う。新たな取り組みについては期待したいし、協力していきたいと思っている。
地元農産物の給食への供給について、地元農産物等を活用していきたいというのはいい取り組みだと思うし、近隣の小学校へ提供しているが、離れている小学校へは時間の制限もあり、持ち込めない。どこかで大量に一次処理したものを提供できる場、一次処理をできる場があればなにか手を打てる。一次処理したものを学校給食に供給することにこだわらなくていいと思う。 |
| C委員 | 地域おこし協力隊に年齢制限があるのか |
| 事務局 | 一定の年齢、50歳と考えている。 |

- D委員 | 新規就農の時に困ったのが、農業全体のことをわかるのに、手探りだったこと。農業全体の仕組みを把握するのが大変だったので、全体的なことを知らせてあげるのが必要だと思う。まだ就農するときの苦勞の記憶があるので、交流して、お伝えできれば、我々も役に立てると思っている。
- 会長 | 全体的なものを取りまとめて、新規就農者にお伝えできればと思っている。
- E委員 | 先日農大に行ったが、農大からは農業公社、農業法人が少ないと説明があった。卒業しても働き口がない。法人自体も作目によっては時期がある、繁忙期には人がいるが、閑散期には人がいない、という状況なので人を入れたくても入れられない。
- 会長 | 地域おこし協力隊については、国から活動経費が出るので、繁忙期は受託作業をするが、閑散期には、条件が悪い農地を耕作するとか、防府市の農業全体に貢献してもらおうと思っている。働き場がないということについては、集落営農法人をしっかりと作っていかねばならない。この取組自体がチャレンジだと思っている。「農林業の知と技の拠点」と連携してやっていきたい。
- C委員 | 農業を今までしていなかった人は無理なのでは。仕事量ほどのくらいか、給料はいくらか、募集かけるときにどういうふうにするのか。
- 会長 | 地域おこし協力隊の給与については、国によって基準が決まっている。都市部から地方に来てもらう。併せて農業公社に農機具レンタルする農機具購入費用を支援する。
- E委員 | 就農者を増やすために、耕作放棄地を使うことはいいことだと思う。作物ができるのなら売り先を考えたらいいと思う。売る場所の確保をするべきではないか
- 会長 | 農業公社がもうけるのではなく、農家の方がもうけることが目的である。
- F委員 | 新規就農者支援事業と地域おこし協力隊を比べた場合に、地域おこし協力隊を選んで就農した方が、メリットがあるように思われるが、新規就農者支援制度の差別化はあるか。
社会人研修で農業大学校に行く場合は、作物を決めてからでなければならないが、地域おこし協力隊の場合は任用期間中に、自分に何が向いているかを考えてから就農できるので、こちらの方が魅力的。新規就農の方に行くのが減るのではないか
- 会長 | これはあくまでも農業公社の職員なので、卒以上の人数は雇えない。地域おこし協力隊の任用期間は3年が限度なので、ずっといるわけにはいかない。その後は、新規就農か集落営農法人に雇ってもらえるか。比較のしようがない。

- B 委員 | 農業公社の人員を確保するうえでも地域おこし協力隊の制度利用はいい。選択肢が増えると防府市で就農する人が増えるかもしれない。
- 会長 | 新規就農者に対しても、農業研修の費用も出すし、農業大学校卒業生が市内の法人に就職すれば、授業料相当額を出す。他の市より防府市が劣っていることはない。
- F 委員 | 新規就農者支援制度でやっていく場合、農業一つを決めた方が魅力的ですよというものがあるのか？
- 会長 | 農業研修の費用も出すし、農業大学校卒業生が市内の法人に就職すれば、授業料相当額を出す。農大生が卒業後に防府で就農してもらえるよう頑張っていきたい。
- G 委員 | 酪農の場合は、酪農ヘルパーといって農家を助ける制度が充実している。山口市は地域おこし協力隊を、農家を助ける制度で進めているみたいだ。防府市の場合は、全くの新規の場合を考えているのか？
- 会長 | 地域おこし協力隊の大枠は決まっているが、詳細は決まっていなので、今日はいろいろな意見が聞きたい。
- J 委員 | 前回の懇話会で提案したことが、今回の予算で、農地集積奨励金という制度で形になり、大変ありがたく思っている。
担い手もかなりの高齢であること、後継者がいないことが以前から問題になっていたが、ここにきて現実味を帯びており、認定農業者が急に亡くなったり、体調を壊したりして、営農を断念されたことが、5,6件起きている。いきなり10ha規模の離農が進んでいる状況で、新たな担い手を探すのが難しい。
そこで、農業公社が農地を一時的にストックして、面倒を見てもらって、その間に、新規就農できる担い手を確保していくことを検討できないだろうか？
- 会長 | 認定農業者が急に離農するということは、逆に言えば大規模な土地があるということなので、そこをうまくやれる人がいれば、事業承継できると思う。
農業公社の活性化も図り、市内の農家の方をサポートできる体制をとっていきたいと思っている。スタートした後も、いろいろなご意見をいただいて、より改善しながら進めたい。
- I 委員 | 先日、先進地視察（愛知県）に行った。向こうの方は効率を上げるのに必死になってやっていた。こちらもそういった方向で目指していきたいと思っている。そのためにはいろいろと実験していかなければならないと思っている。今年は直播と防酪から話のあ

ったトウモロコシにチャレンジしてみようと思っているので、またご支援のほどお願いしたい。

会長

昨年から飼料が高騰している。今回、耕畜連携の予算をいれた。
給食食材について事務局の方から説明してください。

事務局

給食食材の地元農産物の使用について説明。JA、学校給食関係者と複数回協議会を開いて、学校給食食材の地元農産物の使用100%を目指して、課題の整理をした。

課題として、必要な数量が確保できない、品目が不足、規格統一が難しいなどがある。皆さんの御意見をいただきたい。

来年度は地産地消カレンダー、地産マップを作成し、学校に配布予定していることも説明。

会長

献立が先にあるので、献立に合わせて食材を要求しても、無理なことがあると聞いている。洗浄の基準も厳しい。

C委員

給食なので、自分たちが作ったものを食材として使ったらどうか？先日のテレビで、自分たちで作った大根をカレーの中に入れていたりしていた。

A委員

農産物のカレンダーに合わせて作っていききたい。JAグループ山口では、県消費産を取り組んでいる。山口県で消費するものは山口県で生産する。これを防府市でもやっていききたい。防府市で消費するものは防府市で作りたい。

個人的には、カレンダーを使って、給食で使う作物をJAから生産者に作ってもらえるようしてもらえるのが、市内産もかなり増えるので一番いいと思っている。

J委員

量を確保するのが一番の課題。JAが言われたように計画的な生産が必要、洗浄などの課題を克服しないと、すべてを市内産にするのは難しい。

会長

子どもたちを含めて、市内で作るものに愛着を持ってもらいたい。

D委員

昨年給食で使った食材のデータはあるのか。あれば予測ができ、農家としてはうれしい。

E委員

何校か試しにされてはどうか。規格統一を変えるというのは難しいのか？

会長

量は学校単位なので、何校かでやる手法もあるかもしれない。理想は小学校区で取れるのが一番。そういうことを検討しながら、JAと協力してく。

H委員 | サンプルのカレンダーを見ると野菜ばかりだが、米離れが激しい中、パン食を止めて、全部コメにしてもらいたいくらい。地元産のお米を子どもたちに食べてもらう場合、それなりにおいしいお米を食べてほしいという思いもある。一等米に限るとか厳しいものでもいい。そういった形でコメの消費につながる形をとってもらいたい。

会長 | 小麦の生産を推奨しているので、パン食をゼロにするのは、難しい。おいしいものを子どもたちに食べてもらいたい。せっかく「農林業の知と技の拠点」が出来て、土地利用型も出来るので、メリットとして子どもたちに、そして市民の皆様に分かってもらえればと思っており、そう思いながら取り組んでいく。
最後はフリートークで

K委員 | 農業と林業の違いはスパンがすごく長い。植えてから収穫するまで、50~60年かかる。それが一番大変な事業だと思う。植えたら終わりではない。
防府市でも先日大平山で子供たちに伐採の様子を見てもらった。そこで切られた木は板にして、工作等に使う。ぜひ、木を使っていただきたい。植えて、使ってもらって循環を作りたい。植林をして、育てて、使ってもらって、林業の活性化を図ってほしい。

会長 | 先日の大平山でのイベントでは、子どもたちも林業機械を見てびっくりしていた。公共施設についても、県産材を使って整備をさせていただきたいと思っている。

B委員 | 農地集約推進の話があったが、土地利用の話で行くと、やはりコメ、麦、大豆がメインになってくる。自分は野菜を作っているが、今後、穀物も考えていかなければならないと思っている。それを思った時に、何を作ればいいのかわからない。
例えば、市内で法人とかJA、市も入って、地域全体で何を作るのか、場を持ってもらいたい。情報交換もできるし、チームを組んで、空きそうな土地をカバーできるかもしれない。もう少しみんなで協力しながら、防府市の土地利用を切り開いていきたい。今は個別対応だが、情報交換できればいいと思う。

会長 | 地域が一緒に何を作っていくということを話し合うことが、連作障害を防ぐうえでも重要。

G委員 | ファーム大道のWCSが一番助かっている。B委員が先ほど言われていたが、私としてはぜひ牧草を考えていただきたい。うちでも20haの牧草は消費できる。担い手を育てて、牧草作付けを考えてもらいたい。そうすれば、われわれも牛乳を継続的にやっていけるのではないかと考えている。ぜひチャレンジしてもらいたい。

会長 | 買ってもらえる契約であれば、農家の方もきっとメリットがある。山口県では、最近

酒米が有名になっているが、出来が悪くても必ず買うという契約をして、安定して、今のようになった。

G委員 | 平成27年から年間契約を継続していて、順調に行っている。13tくらいトウモロコシが入ってきている。前例もあるので、ぜひお願いします。

C委員 | 耕作放棄地対策について、ラジコン草刈り機について、急斜地でも使えるのか？

事務局 | 法面の傾斜地でも使えると考えている。

F委員 | 前回この場で聞いたことがどうなったかを聞きたい。

A委員 | ミカンの新規就農のパンフレットの件について、本所で経営指標を作っている。葉物は2反で340万円くらいだが、ミカンは1反で14,15万円。1町でやっと150万円弱くらい。葉物は3か月くらいでできるが、ミカンは園地を譲ってもらえなければ、苗木を植える所から始めることになるので、何年もかかってしまう。経営継続で園地があれば紹介できるが、なかなか新規就農希望者に対してミカンで来てくださりは難しい。

また、玉ねぎについては、西部営農センターで風乾機械をリースし試してみた。よかった点は、保存が効き、遅くに出荷できた。悪かった点は、音がうるさく、近隣の家から苦情が出た。JAとしては、新年度に導入する予定。

玉ねぎの作付け面積は、ファーム大道が増やしてもらえる。

F委員 | 前回の玉ねぎの話を手農家にしたら苦笑された。県の指標で、10a単位で純利益が3万4千円だから20aにしたところで、約7万円ではないか

A委員 | 確かにそうだが、なにかをしないとできない。それでも面積を増やしていく努力をしている。作業能力を上げていくために、機械を入れるなど努力をしていく。

F委員 | 新規就農のために、玉ねぎの経営指標も作ったらどうか？

会長 | 拠点ができて、どのようなものを作っていけばいいか、リスク回避ができるのか、集落営農法人に入った方がいいのか。しっかり提示していきたい。

閉会